

『千字文』 翻訳研究

山 田 雄 一 郎

(受付 2003年8月25日)

ま え が き

研究のねらい

この翻訳は、試訳である。今後改良を加えるための布石である。また、この翻訳は、後に述べる理由から、抜粋訳となっている。千字文の全てを訳出したものではない。この研究のねらいは、千字文の各句の簡潔さと意味の広がりをもどのように英語に写し取るかを検討することにある。

千字文の英訳は、これまでに何種類か出版されている。直接参照したものだけでも、本格的な英訳は二点あった。英訳以外にもいくつかの西洋語に翻訳されている。それらの中には、百年以上も前に翻訳されたものも含まれている。

ただ、残念なことに、こうした翻訳の多くは、先人の業績を互いに参照し合っており、独自の解釈に立ってなされたとは言い難いところがある。たとえば、今回直接の資料とした Paar の本 (1963) には、Bridgman の英訳 (1835) の他に、代表的な先行研究である Julien のフランス語訳 (1862)、Hauer のドイツ語訳 (1925)、Zottoli のラテン語訳 (1879) が掲載されている。Paar がこれらを活用したことは明らかで、事実、彼の訳文には Bridgman の影響が顕著である。ついでながら、Julien と Hauer においても Bridgman の影響が見られる。

これらの翻訳に見られるもう一つの特徴は、彼らが西洋人の研究者として漢字の意味、句の意味に拘泥するあまり、訳文が解説的、説明的になっている点である。

彼ら自身は、よく漢字を研究し、その意味を捉えてこれをそれぞれの言

語に移そうとしている。しかし、もともと漢字の民でない彼らは、われわれと異なり、漢字を見て瞬時にその意味の世界を展開することが難しい。彼らは、それを研究によって補わなければならない。彼らの翻訳が総じて解説的となっているのは、ここに原因があると考えられる。

今回の翻訳では、この点の改良を心がけた。解説的な翻訳で失われている原句のスピード感を取り戻すこと、説明的な英語を避けて漢字がもつ意味の広がり英語で再現すること、この二点が最大の眼目である。

千字文について

千字文(せんじもん)が編まれたのは、中国・梁(502~557)の時代のことである。梁は、4代55年の間続いたが、この書が完成したのは初代の蕭衍(武帝)の時である。千字文は、1000の漢字を1字の重複もなく組み合わせられて作られた四字句からなる韻文(四言古詩)である。すなわち、この書は、1000の漢字を4字ずつ組み合わせた合計250句からなる韻文の集成である。

一般に、この書は、中国の識字教科書あるいは漢字学習書、また習字(書写)の手本として知られており、6世紀から20世紀初頭まで広く用いられた¹⁾。その用途については多少意見が分かれているようであるが、私は、千字文については全くの門外漢であるため、それを云々する資格はない。正確を期するため、この間の経緯については、小川環樹・木田章義注解(1997)『千字文』の記述を借りて紹介する。

梁の武帝は皇子たちに書を習わせるため、王羲之²⁾の筆跡の中から重複

1) 例えば、山崎朋子のノンフィクション小説『朝陽門外の虹』(岩波書店、2003: 337)に「教科書として用いたのは、その頃でも街で売られていた『市民千字文』というもので、庶民の実生活にすぐに役立つ知識や道徳を書いたものだった」という記述が見られる。ここでいう「その頃」とは、1940年頃を指している。

2) おうぎし(307?~365?)。中国・東晋時代の能書家。現在でも書聖と謳われ、和様書道にも大きな影響を与えたとされる。

しない文字一千字の模本を作らせたが、一字ずつの紙片であって、ばらばらで順序はなかった。武帝は周興嗣を呼び出し、「これを韻文になるように考えてくれ」といった。そこで周興嗣は一晩かかってこの一千字を用いた整然たる韻文一篇を作り、武帝にたてまつったが、その苦心のため髪の色がまっ白になった、という。(中略)一夜で白髪になったなど誇張された処はあるが、右の記事は、「千字文」が最初から習字の手本として作られたことを示す点で注意すべきである。

千字文の普及は、唐の時代(618~907)に入ってその勢いを増したようで、やがて日本にも紹介されることとなった。しかし、渡来の年代については意見が定まっていない。『古事記』³⁾には、次のような記事がある。

この御世に、海部・山部・山守部・伊勢部を定めたまひき。また、劔の池を作りき。また、新羅の人参渡り来ぬ。ここをもちて、建内の宿禰の命引率て、渡の堤の池として、百済の池を作りき。また、百済の国主照古王、牝馬壺正・牝馬壺正をもちて、阿知吉師に付けて貢上りき(この阿知吉師は、阿直の史等が祖ぞ)。また、横刀また大鏡を貢上りき。また、百済の国に、

「もし賢し人あらば貢上れ」

と科せたまひき。から、命を受けて貢上れる人、名は和邇吉師⁴⁾、すなはち論語十卷・千字文一卷、并せて十あまり一卷を、この人に付けてすなはち貢進りき(この和邇吉師は文の首等が祖ぞ)。

すなわち、この記録および『日本書紀』に従えば、千字文が渡来したのは応神天皇16年ということになる。これは、西暦で言えば285年にあたり、千字文の成立年代とあわなくなってしまう。この点の解釈を巡っては、江戸末期以来二通りの見解が示されている(*ibid.*, 399)が、ここでは本稿の主旨から外れるので割愛する。また、千字文は、作者、成立年、使用目的、韻文の構造、渡来年などをめぐって専門家の間で研究が重ねられているが、

3) この引用は、西宮一民校注『古事記』(新潮日本古典集成)からのものである。

4) 王仁(わに)、生没年不詳。百済からの帰化人。『古事記』には、「論語」および「千字文」を伝えたことと記されている。

なお不明な点も残っているようである。

翻訳にあたって

千字文の翻訳書や注釈本の類は、古くから存在する。それは、既に触れたように、この書が唐の時代より広く流行し、その影響が中国のみならず周辺諸地域にまで及んだことと関係がある。小川・木田(1997)では、敦煌の千仏洞で発見された写本、チベット語で音訳されたもの、その字義に相当する梵語(サンスクリット)を悉曇字⁵⁾で書き入れた『梵語千字文』などに触れている。近世になっては、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ラテン語などに翻訳されているようで、例えば次のような資料がある。古いものから順に示す。

1. Bridgman, Elijah Coleman (1835), 'Tseen Tsze Wan, or the Thousand Character Classic: its form, size, object, style, and author; a translation with notes; new books needed for primary education of the Chinese,' *The Chinese Repository* (Canton), 4, 5, pp. 229-243.
2. Julien, Stanislas (1862), *Thsien-tseu-wen: Le livre des mille mots. Le plus ancien livre élémentaire des Chinois, publié en Chinois avec une double traduction et des notes*, Paris.
3. Giles, Herbert Allen (1873), *The San Tzu Ching or Three character classic and the Ch'ien Tsu Wen or Thousand character essay*, Shanghai: A. H. de Carvalho.
4. Zottoli, Angelo (1879), 'Mill Litterarum Lucubratio,' in his *Cursus litteraturae sinicae*, vol. 2, pp. 112-131, Shanghai.
5. White, W. J. (1883), *Sen ji mon: one thousand Chinese characters of constant occurrence in Japanese literature*, Yokohama: Kelly.
6. Hauer, Erich (1925), 'Das Ts'ien-tse-wen in vier chinesischen Schriftformen mit einer monogolischen Übersetzung,' *Mitteilungen des Seminars für Orientalische Sprachen an der Friedrich-Wilhelms-*

5) したんじ。梵字の字母で、日本には天平(729-749)年間に南インドから伝わったとされる。

Universität zu Berlin, Jhrg. 23, pp. 1-47, Berlin.

7. Bagchi, Prabodh Chandra (1927-1937), *Deux lexiques sanskrit-chinois: Fan yu tsa ming de Li Yen et Fan yu ts'ien tseu wen de Yi-tsing*, Paris: Librairie orientaliste P. Geuthner
8. Paar, Francis W. (ed.) (1963), *Chien tzu wen: the thousand character classic: a Chinese primer*, New York: F. Ungar

以上の資料のうち、Gilesは未見である。また、Julien, Zottoli, Hauerについては、Paarに収録されているのでこれを利用したため、直接あたっていない。

本稿では、Paarのものを素材として利用した。WhiteとBagchiは、漢字ごとに相当する訳語をあてただけで、全体を韻文として翻訳したものではないため、今回の翻訳では直接の利用価値はなかった。たとえば、Whiteの本は、次のような記述が中心になっている。

「別」→ベツ、ベチ／わかづ、わかる／To separate, to divide, distinguish

「習」→シフ、ジフ／ならひ、まなぶ／To practice; skilled, used to; a custom

この例に見るとおり、四字一組で扱うのではなく、一字ごとに日本語の音訓読みを施し、その意味を英語で示すという方法が採られている。また、Bagchiは、記述に梵字を用いている点に特徴があるが、漢字を個別に示しているという点は同じである。もともと、これらの本のねらいが、当時の外国人向けに漢字を紹介し、進んではその学習に役することにあっただけかも知れない。Whiteの本には、その持ち主が漢字を練習したと思われる書き込みがそこそこに見られた。たとえば、「謂」に対して words & stomach と分析して捉えたり、「來」の字に含まれる「人」を抜き出し、nimben と註をふったりしている。

内容がもっとも充実しているのは、Paarのものである。全体で288ページを使い、Bridgmanらの翻訳を紹介した上に、これまでの諸研究を参考にし

て詳細な解説を付している。

翻訳にあたっては、小川環樹・木田章義による注解本(1997)(以下、「注解」)とPaarの訳本を参考にした。すでに述べたように、この翻訳は抜粋訳である。抜粋の基準は、各句のもつ意味によっている。250句の内には、中国故事に関わる人名や地名も数多く登場する。人名や地名の挿入された句は、翻訳自体が平坦になる傾向がある。そのため、背景にある故事・伝説についての知識がなければその言わんとするところを察することができない。例えば、句25-26「弔民伐罪 周發殷湯」は「民を弔み、罪を伐ったのは、周の武王や、殷の湯王であった」という意味であるが、この英訳は 'Those who comforted the people, and chastised their oppressors, were Woo Wang of the Chow, and Tang of the Shang dynasty' (Bridgman) のようになってしまう。下線部分は、翻訳上操作することができない。今回は、これら翻訳上の操作ができない語句を含むものを全て除外し、その意味の普遍性が高く、ために、現代人に理解されやすいと思われる句のみを選んでいる。

千字文は、各句が四字で構成されているため、合計250句に読み分けられる。この250句は、さらに二句一対として扱われるのが普通で、「注解」その他の文献もすべてそうになっている。本稿もその慣例に従っている。

訳出の形式は、以下に見るとおり、まず原典の二句を示し、次にその口語訳を示す。口語訳については、私自身に中国語の知識が乏しいため、小川環樹・木田章義注解(1997)にあるものをそのまま借用転載している。英訳に続く補説では、翻訳の際の推敲を記している。

翻訳が原典の意味を重視していることは言うまでもない。ただ、この翻訳は、千字文を学問的に取り扱うことを目的にしていない。従って、語義の解釈や語法の問題を専門家の研究に従って忠実になぞったものではない。原典と口語訳を参考にしてはいるが、翻訳上の効果を考え敢えて意識を施した箇所も含まれている。その点については、補説においてその理由などを示している。

翻訳上、とくに心がけたことは、一対となっている二句を独立した二文にすることである。対になっている二句の中には、二つで一つの文の構成になっているものも少なくない。たとえば、句37-38, 101-102, 211-212などがそれにあたる。翻訳では、これらを敢えて二つの文に読み直したため、もとの句意を新たに解釈し直したものもある。

略語について

以下の抜粋訳中で、いくつかの略語をもちいている。これについて、一括してその意味を記しておく。なお、各対句の冒頭の数字は、それぞれが千字文250句中に現れる順序を示している。数字の欠けているのは、その部分に相当する句を翻訳の対象から除外しているという意味である。

私自身の英訳は、「英訳」の項に記してある。それ以外の略語の意味は、次の通りである。

- | | |
|-------|------------------|
| 「注解」 | 小川環樹・木田章義注解『千字文』 |
| 「原典」 | 千字文原文 |
| 「口語訳」 | 小川・木田による現代語訳 |
| (P) | Paar による英語訳 |
| (B) | Bridgman に滋る英語訳 |
| (J) | Julien によるフランス語訳 |
| (H) | Hauer によるドイツ語訳 |
| (Z) | Zottoli によるラテン語訳 |

千字文抜粋訳

1-2

原典

天地玄黄 宇宙洪荒

口語訳

天の色は黒く、地の色は黄色であり、
空間や時間は広大で、茫漠としている。

英訳

Heaven was dark, the earth was yellow.
The whole universe, vast and vague.

補説

「注解」に、宇は「上下四方の空間」をいい、宙は「現在・過去・未来の時間」をいうとある。これに従えば現在時制で表現すべきかと思うが、ここでは、物語性を与えるために敢えて過去時制を用いた。

この点の判断は、訳者次第かと思う。Paar自身は、現在形を用いているが、Julienによるフランス語訳では、第二句が (Au commencement du monde), l'univers était vaste et désert となっている。すなわち、「天地開闢之初、其時即草昧也」という解釈に従っている。

第二句で繫詞を省いたのは、このほうがリズムを整えやすいと考えたからである。また、洪荒の部分に相当する vast and vague は、英語においてしばしば用いられる組み合わせで、頭韻の対応関係も丁度よい。

3-4

原典

日月盈昃 辰宿列張

口語訳

太陽や月は、満ちたり・欠けたりし、
星座は、弦を強く張ったように連なっている。

英訳

Sun and moon full and decline.
Stars are arranged, truly stationed.

補 説

この二句を簡潔な英語に移すことは難しい。「満ち欠け」を表す英語に wax and wane という常套句があるが、これは月について用いられるもので日にはあてはまらない。Bridgman の英訳も Julien のフランス語訳も、説明的である。とくに、Julien のものは論理に走りすぎており、原典の調子をすっかり失っている。

(J) Quand le soleil a dépassé le point du midi, il decline vers le couchant, quand la lune est dans son plein, elle décroît.

これに対して、Hauer のドイツ語訳は、Die Sonne ist voll, der Mond nimmt ab と極めて簡潔である。しかし、これでは「太陽は満ち、月は欠ける」と言っているに過ぎず、原典の意から外れすぎている。

また、ラテン語訳は Sol et luna, plena et occidens (日と月は、満ちて沈む) となっており、簡潔ではあるが意味が不十分である。結局、ここでは、Paar による The sun and moon, full and declining を活かして調子を整えた。

二句目もやっかいである。「注解」は、この句の意味を、『論語』(為政) 中の「北辰、其の所に居て、衆星之を拱く(北極星は固定した位置にあり、他の多くの星がそれに向かってあいさつしている)」をもって説明している。

辰は「北極星」を、宿は「衆星」を指しており、これらを英語一句に収めることはできなかった。「英訳」では、辰の方を犠牲にしている。

5-6

原 典

寒来暑往 秋収冬蔵

口語訳

寒さがやって来れば、暑さは去ってゆき、
秋には作物を刈り取り、冬にはそれを蔵に収める。

英 訳

Winter comes and summer goes.
Harvest in autumn, store for winter.

補 説

寒と暑は、それぞれ冬と夏に置き換えた。Paar は、そのまま the cold, the heat とし、the cold comes and the heat goes と翻訳している。フランス語訳、ドイツ語訳、ラテン語訳のいずれも同様である。Bridgman のものに heat and cold (summer and winter) alternately prevail とあるのみである。ここでは、これを利用した。ただし、alternately prevail は力強さに欠けるので用いない。なお、「注解」には、「春には耕し、夏には耘り、秋には収め、冬には蔵にす」と、『荀子』(王制) よりの引用が示されている。

二句目は、Paar では In autumn crops are harvested, in winter they are stored away となっている。やや、冗長である。変わったところでは、Hauer の der Herbst sammelt ein, der Winter birgt と Zottoli の autumnocolligitur, hieme reconditur がある。三人称主語の省略が、擬人化の印象を与える。

なお、冬の部分の英訳と仏訳は、それぞれ、in winter, en hiver となっているが、ここでは for winter とした。

9-10

原 典

雲騰致雨 露結為霜

口語訳

雲は空に騰って、雨を降らせ、
露は凝結して、霜と為る。

英 訳

Clouds ascend and bring rain.
Dew thickens and forms frost.

補 説

最初の句は、比較的扱いやすい。Paar, Bridgman, Julien, Hauer を比べてみよう。

- (P) Clouds ascend and bring rain.
- (B) Clouds ascend and cause the fall of rain.
- (J) Les nuages montent et amènent la pluie:
- (H) Die Wolken steigen auf und bringen Regen.

この中では、Paar のものがよい。「英訳」も、わずかに ascend を gather に換えるかで迷ったが、結局、Paar と同じになった。やはり、ascend のほうが gather より原義に忠実でよい。二句目については、Paar と Bridgman を比べよう。

(P) Dew congeals and forms frost.

(B) The dews congeal and form hoar-frost.

互いに似ているが、ここでも Paar がまさる。the dews では、力強さに欠ける。hoar-frost も単に frost がよい。Bridgman では、the と dews と hoar が、三つしてスピード感を殺いでいる。Paar の congeal は、「英訳」では thicken とした。congeal の語頭 [k] 音を嫌ったためである。dew には、thicken の柔らかい響きの方が似合っている。

17-18

原典

海鹹河淡 鱗潜羽翔

口語訳

海の水は潮からく、河の水は淡い。
鱗のあるものは水に潜り、羽のあるものは空を翔ぶ。

英訳

The sea is salty, the river sweet.
Fish swim and birds fly.

補説

第一句は、鹹と淡にどんな英語をあてるかによって全体が決まる。鹹については、各翻訳とも英語の salty にあたる語を用いているが、淡には fresh と no taste の二通りが見られた。「英訳」は、sweet を用いている。淡水を sweet というのはやや古い言い方で、現在では fresh が一般的である。ただ、塩気のないバターのことを sweet butter というから、salty との対比でこれを選んだ。

第二句では、鱗と羽にややてこずる。「注解」には、鱗とは「魚や竜の属」、羽とは「飛鳥の属」、とある。Paar と Bridgman では、それぞれ次のように訳されている。

(P) The scaly tribes lie hidden in the water, the feathered ones soar aloft.

(B) The scaly tribes swim, the feathered ones fly.

よく似ているが、Paarは「潜」にこだわり、Bridgmanはそれにこだわらなかったことがスピード感の違いになっている。Julienは、別な視点からこれを訳した。

(J) Les poissons s'enfoncent dans l'eau, les oiseaux volent dans l'air.

すなわち、Julienは、潜に忠実である一方で鱗と羽を poissons (魚), oiseaux (鳥) と簡単に表している。これがこのフランス語訳になめらかさを与えている。

「英訳」は、これら三者を足して割ったものになっている。鱗と羽に the scaled, the winged をあてることも考えたが、選ばなかった。

33-34

原典

鳴鳳在樹 白駒食場

口語訳

鳳凰は樹の上で鳴き、
白駒は畑で草を食べる。

英訳

The phoenix singing in the tree.
The white colt grazing in the meadow.

補説

「注解」に、宋四代英宋の名、曙と同音の樹を避けて竹とするテキストがあると記されている。Paarの拠っているテキストがこれで、鳴鳳在樹は鳴鳳在竹と書かれている。Paar以下の翻訳もこれに従っている。

「英訳」は、樹に拠っている。

Bridgmanのみ白駒を複数で扱っているが、ここでは単数が至当と思う。「注解」には、「賢人は駒に乗ってやって来て、(王に)

謀を告げる。駒はやって来ると、畑の中で餌を食べる。それは恐らく駒の住むべき所なのだろう」という記述がある。

37-38

原典

蓋此身髮 四大五常

口語訳

そもそも此の（われわれの）身体髪膚は、地水火風の四大よりなり、仁義礼智信の五つの徳をそなえている。

英訳

Nature forms our body.
Virtue nurses our mind.

補説

この二句は、合わさってまとまった意味になる。すなわち、四字ずつを個別に翻訳することが難しい。その点がこれまでの対とは異なっている。くわえて、四大五常の扱いが厄介である。四大とは万物の基となる地水火風の、五常とは仁・義・礼・智・信の五徳の謂いである。Paar はこれを伝えようとし、Bridgman は句意に淡泊である。

- (P) Because this, that is, our bodies and even our hair exist in a physical world of four great elements and in a moral world of five constant virtues.
- (B) Now this our human body is endowed with four great powers and five cardinal virtues.

Paar の訳は、説明的に過ぎる。一方、Bridgman のそれは、味気ない。これでは、句意を十分伝えることができない。Julien と Hauer では、句意はほとんど無視されており、単なる語句の移しかえになっている（もっとも、Julien は二句をあわせて長い訳文もある）。かえって背景の意味を想像させて面白い。

- (J) Notre corps et nos cheveux, quatre grandes choses ... et ...les cinq régles.
- (H) Nun sind diese Person und Haupthaare, die Vier Grossen

und die Fünf Ewigen.

「英訳」は、これらの訳例を参考にしながら、思い切った意識を試みている。四大に nature を、五常に virtue を当て、body と mind によって独立した二句とした。

39-40

原典

恭惟鞠養 豈敢毀傷

口語訳

つつしんで (父母に) 守り育てられたことを思えば、
どうして敢えて身体を傷つけたりできようか。

英訳

Protected and nursed by nature.

Protect and nurse thyself.

補説

この二句は、前二句 (37-38) と関連がある。われわれは、自然、すなわち四大の中から生まれ、五常に守られて、すなわち父母の恩によって育まれる。そのわれわれの体を自ら傷つけることはできない。前二句との間には、このような意味関係がある。『孝経』(開宗明義章第一)に「身體髮膚受之父母不敢毀傷」とある。

この翻訳は、さらに工夫が必要である。単に意味を英語に移すだけなら簡単であるが、数語にまとめるのは容易ではない。Paar らもその点に苦心しているが、原典の雰囲気は失われている。

「英訳」は、Paar らが用いた parents, respect, reverence, how dare, destroy, injure などの語句を離れて、表現の方向を一変させている。

43-44

原典

知過必改 得能莫忘

口語訳

過ちに気付いたら、必ず改め、
大切なことを学んだら、忘れるな。

英 訳

To err is to amend.

To learn is to remember.

補 説

句意は明快である。Paar, Bridgman, Julien, Hauer の翻訳は、次のようになっている。

(P) When you know your faults, you must correct them.
When you have acquired a capacity (for virtue), do not neglect it.

(B) When you know your own errors, then reform. And when you have made acquisitions, do not lose them.

(J) Quand on connaît ses fautes, il faut se corriger. Quand vous avez acquis une capacité, une qualité morale (Ou-tch'ang), ne l'oubliez pas, ne la perdez pas.

(H) Wenn man weiss, dass man gefehlt hat, muss man ändern; wenn man Können erlangt hat, vergesse man nicht.

これらは、いずれも句意に忠実である。その結果、ほぼ同じような訳文になっている。これでは、原典の警句的雰囲気伝わりにくいため、「英訳」では、to-infinitive を用いてこの点を強調した。

45-46

原 典

罔談彼短 靡恃己長

口語訳

他人の欠点をあげつらうな。
自己の長所を誇るな。

英 訳

Blame not others.

Praise not thyself.

補 説

罔も靡も、「無い」の意である。「注解」は、この二句を、李善の注を引いて「君子は他人の欠点をあげつらわず、己れの長所

を口にしない」と説明している。

Paar は, 'Do not talk about the shortcomings of others. Do not depend on your own superiority.' と素直に訳している。

47-48

原典

信使可覆 器欲難量

口語訳

約束したことは, くりかえして言える (守る) ようにし, 自分の器量は他人には測り難いように心がけよ。

英訳

Let you keep your promise.

Let you stay unfathomable.

補説

句48は, 「人の器量というものは, それがどんなに高く, どんなに奥深いものかを識ろうとしても, たやすくは推し測ることができない」という意味だ, と「注解」にある。これは, 「口語訳」とニュアンスが異なる。「英訳」は, 「口語訳」に従っている。Paar とも同様である。

51-52

原典

景行維賢 剋念作聖

口語訳

りっぱな行いをする人は賢人であり, 克く考える人は聖人となる。

英訳

A sage acts good.

A saint thinks deep.

補説

景行とは「りっぱな行い」であり, 剋念とは「よく考える」の意味である。Paar および Bridgman の翻訳は, 次のようになっている。

(P) Admire the deeds of the virtuous only. If you are capable of reflective thought, you could become a sage.

- (B) Observe and imitate the conduct of the virtuous. And command your thoughts that you may become wise.

Paarに使われている admire は、意味が間接的となり迫力に乏しい。また、If you are capable of ~ も心にひびく訳とは言い難い。この点、Bridgman の表現の方が直接的で力強い。いずれにしても、両者とも、「原典」の意味をやや損ねた感がある。これに対し、Julien のものは、素直な翻訳となっている。

- (J) Celui-la seul est sage qui admire les belles actions et les imite. Celui qui est capable de penser aux cinq vertus et de les pratiquer, peut devenir un saint.

(よい行いを尊びこれを真似るものは、賢人である。五常を思念しこれを実践できるものは、聖人たりうる)

「英訳」では、Paar の条件文、Bridgman の命令法、Julien の関係詞のいずれをも避けている。acts を act に、thinks を think にと少し距離をとった表現にすることも考えたが、ここでは単純な形を選んだ。

53-54

原典

徳建名立 形端表正

口語訳

徳がたしかに定まれば、名声もあがり、
身体の動きも、容貌も端正になる。

英訳

Virtue once founded, established be your name.
Acts once rectified, brightened be your face.

補説

形は「身体」を表し、形端は「身体の動作が正しければ」の意であるという。「英訳」は、直訳に近い形を取りながら、押韻上の工夫を施している。参考までに、Paar と Bridgman の翻訳を示す。なお「英訳」は、Bridgman を翻案したものである。

- (P) On well-founded virtue, a good name will be established.
A proper figure displays correctness.
- (B) Your virtue once fixed, your reputation will be established. Your habits once rectified, your example will be correct.

55-56

原典

空谷傳聲 虚堂習聽

口語訳

誰もいないはずの谷に、声が響いて伝わり、
誰もいないはずの堂に、声が響いて、それを学ぶ。

英訳

The voice is heard in deep valleys.
The voice is learned in empty halls..

補説

「口語訳」は、表の意味である。「注解」には、次のような記述が見られる。

この二句は李注に従って訳したが、旧刊大字本では、人の善行・悪行の報いは、空谷・虚堂に声が響くごとく速やかであることを言う、とする。倉田淳之助氏は「千字文について」(六二頁参照)で、この二句を、『礼記』(曲来上)の「聴於無声、視於無形」などと同じ発想で、「人の居ない谷でも声が伝わる気持でふるまい、人の居ない座敷でも教をよく聞く気持で学習する」と解釈される。

表面の意味に忠実な Paar と韻文調の Julien を引く。ただし、両者とも、「口語訳」にある「学ぶ」の意を訳出していない。

- (P) In hollow valleys sound is transmitted. We hear its resounding in empty halls.
- (J) Dans une vallée vide, les sons se propagent. Dans une sale déserte, l'écho répète la voix.

「英訳」は、以上を総合して意識している。聲は the voice で形式を整えたが、傳と聽が犠牲になっている。

57-58

原典

禍因悪積 福縁善慶

口語訳

禍いは悪業を重ねることによっておこり、
福いは善行や慶びから生じる。

英訳

Bad deeds invite bad fortune.
Good deeds invite good fortune.

補説

「注解」には、縁は因に同じ、とある。これにより、「禍は悪積により、福は善慶による」と単純化して読むことができる。Paarらの解釈も、これに従っている。「注解」には、別な読みも示されているが、「英訳」も Paarらに倣う。PaarとHauerの翻訳を紹介する。前者は受動文、後者は繫辞文の違いはあるが、単純明快な言い回しとなっている点は共通している。「英訳」は、どちらの構文も選ばなかった。

(P) Misfortune is caused by an accumulation of wickedness.
Good fortune is caused through good deeds' being rewarded.

(H) Der Grund des Unglücks ist die Anhäufung von Bösem,
die Ursache des Glücks ist die Belohnung von Gutem.

59-60

原典

尺璧非寶 寸陰是競

口語訳

一尺の玉は、宝ではなく、
一瞬の時間、それを競え。

英訳

Do not fight for a foot of jade.

Do fight for an inch of time.

補説

『淮南子』(原道訓)には、「聖人不貴尺之璧而重寸之陰」とある。璧は「ドーナツ形の硬玉」(「注解」)とのことであるが、「英訳」は、単に「宝玉」に解している。これにjadeをあてたのは、Paarらを真似たものである。An inch of timeの言い回しもPaar, Bridgmanにある。

67-68

原典

似蘭斯馨 如松之盛

口語訳

(忠孝の道に励む者は)
蘭の香りのようにさわやかで、
松の盛んに生い茂るように栄える。

英訳

Be fragrant like orchid flowers.
Be flourishing like pine trees.

補説

馨は「香り」の意である。「注解」は、『孔子家語』より「善人と交わるは芝蘭(香りのよい霊芝と蘭)の室に入るが如し」を引いて、句67は「その香りを身につけて愛すべきである」の謂いであると説明している。また、松はどの季節でも茂っているため、君子の志操を譬えて用いられることが多い。

PaarとBridgmanは、それぞれ次のように訳している。

(P) Deeds like these are fragrant like orchids. They are like the flourishing of the pine tree, which is always green.

(B) Then your virtue will rival the Epidendrum in fragrance; And in rich exuberance, be like the luxuriant pine.

69-70

原典

川流不息 淵澄取映

口語訳

川が流れて、止まることがなく、
淵が澄んで、物の影を映す（ようである）。

英訳

Be steady and vivid like everflowing streams.
Be limpid and reflective like deep waters.

補説

この二句は、表の意味が簡明である分、含意するところが大きい。少し長いが、その解説を「注解」より一部を割愛しながら引用する。

『文選』の論に、「之を水に譬うれば、之を通ずれば、斯に川と為り、之を塞げば、斯に淵と為る（〔運命の論を〕水にたとえると、運が通ずれば川のようにどこまでも流れ、塞ぎられると淵となって止まってしまう）」と言い、『論語』に、孔子は川辺で嘆いて、「逝く者は斯くの如き乎。昼夜を舍めず」と言ったという。『漢書』の賈誼の賦に、「澹（やすらかなさま）として、深淵の静なるが如し」と言う。おそらく、「川流」はその動の面をとり、「淵澄」はその静の面をとったのであろう。

翻訳は、この意味をどう表現するかで方向が分かれる。Paarは、その真意に迫ろうとしており、Julienは、句の表面の意味を追っている。

(P) They are lasting like the flowing of streams that never cease. They are like pure deep waters that take a dazzle as they reflect the sunlight.

(J) Les fleuves coulent sans s'arrêter. Si une eau stagnante est limpide, elle réfléchit les objets.

「英訳」は、句69については『文選』の解釈を、句70については『漢書』の解釈をとっている。すなわち、孔子の嘆きは採用せず、二句全体を楽天的に解釈している。命令形を用いて調子を強めてもいる。

71-72

原典 容止若思 言辭安定

口語訳 立ち居ふるまいは物を考えているようにおごそかにし、
ことばは落ちついてはっきりとさせる。

英訳 Let your behavior ever be thoughtful.
Let your words ever be calm and clear.

補説 第一句の容止は「立ち居ふるまい」を、若思は「まるで考えこんでいるように—そのようにおごそかに」の意であるという（「注解」参照）。
Paar と Bridgman は、これを次のように訳している。

(P) Let your demeanor be like that of a thoughtful man.

(B) Let your deportment always be grave and thoughtful.

用いている語は異なっているが、同一の形式を踏んでいることは明らかである。第二句では、Bridgmanがこの形をくずしている。

(P) Let your words and phrases be calm and decided.

(B) And your conversation calm and decided.

「英訳」も Let ~ で表現した。容止にあたる表現は、demeanor や deportment の代わりに behavior を選んだ。demeanor や deportment ほど大袈裟でなく、音節も少ないため、全体のリズムが取りやすいことがその理由である。二人が用いている decided は、calm と頭韻を踏ませるため clear に換えた。音節数も二つ少なくなっている。また、やや古風な ever を always の意味で用いたのも、同じ理由による。

これによって、この二句の音節数は10となり、Paar と Bridgman より意味の強さが増す。

73-74

原典

篤初誠美 慎終宜令

口語訳

(物事の) はじめに念を入れてするのは、もとより良いことであるが、
終わりを慎んでこそ、すべてが良いはずである。

英訳

Begin with diligence, and it is good.
End with discretion, and all is good.

補説

「注解」に李注を引いて、「篤は(志の)厚い(堅実な)ことである。令は善いことである。この二句の意味は、堅実な意志をもってはじめるのは、たしかに良いことであるが、さらにその終わりを慎んですべきで、終始一つの心に貫かれてこそ、ほんとうに良い、ということである」と解説されている。Paar と Hauer の翻訳を比べてみよう。

(P) Diligence in the beginning is truly admirable.

Attentiveness to the end is proper and honorable.

(H) Fest im Anfang ist wahrhaft schön, vorsichtig am Ende ist vortrefflich.

この二つの構文は全く同じと言ってよい。こうして見ると、簡潔さにおいてドイツ語がまさるか。「英訳」は、all にこだわった。

97-98

原典

性静情逸 心動神疲

口語訳

本性が落ちついているときには、心は穏やかで、
心が動くときには、精神は乱れる。

英訳

Calm temper, and you'll get refreshed.
Agitated mind, and you'll get fatigued.

補説

「注解」に、性と神についての説明がみられる。

[性] 「天の命ずる、之を性と謂う」(『中庸』第一章)。人が生まれつき持っているもの。これが動いて「情(心の作用)が生じる。

[神] 精神。「心は形の主なり。而して神は心の宝なり(心臓は身体のあるじとなるものであり、精神はその心臓のはたらきの[最も尊い]宝である) (『淮南子』精神訓)。

また、「心を動かして、物を追うと、精神が疲れるのである」という一行もある。Paar, Bridgman, Julien のものをあげよう。

- (P) If you are of a calm temper, your emotions will be quiet; but if your heart is excited, your spirit gets weary.
- (B) If the disposition be gentle, the passions will be tranquil: But if the mind is agitated, the spirit becomes exhausted.
- (J) Quand la nature de l'homme est calme, ses passions se tiennent en repos. Quand le coeur est agité, l'esprit se fatigue.

いずれもよく似た言い回しになっていることがわかる。句意が明瞭である分、やむを得ないかと思う。「英訳」は、条件文の冗長を避けている。とくに二句目に現代風なニュアンスを与えるために、敢えて原句の意味を逸脱して refreshed を用いている。you'll と短縮形を用いたのも、同じ理由による。refreshed と fatigued を対にして現代人の疲れと癒しに掛けたのだが、少し遊びが過ぎたか。

99-100

原典

守眞志満 逐物意移

口語訳

自然の道を守れば、志は満たされ、
物を追い求めれば、心もそれにつれて変わってゆく。

英 訳

Leave it as it is, and you'll get satisfied.
Leave it as it is, or you'll get disturbed.

補 説

真は「天の道」の謂いという（李注）。「口語訳」は条件文になっているが、Paar は第一句に命令法を用いている。

(P) Hold on to what is genuine, and your ambition will be satisfied. In pursuing worldly things, our thoughts become disoriented.

いずれにしても、真すなわち「天の道」をどう訳すかが難しい。Paar では what is genuine だが、Bridgman, Julien, Hauer はそれぞれ、realities, la pureté de notre nature, das Echte となっている。「英訳」は、「自然の道を守れば」と「物を追い求めれば」を表裏の関係と捉え、両方を Leave it as it is で表した。後半部に you'll を使うことにより、口語調の軽さも添えたつもりである。相似形を得るべく、思い切った意識になっている。

101-102

原 典

堅持雅操 好爵自縻

口語訳

正しい操を堅持しておれば、
高い官位が自然とつきまとう。

英 訳

High dignity is to be pursued.
High rank is not to be pursued.

補 説

雅は「正しいこと」、操は「節」、爵は「禄」、縻は「係ること」と「注解」に書かれている。Paar らは、それぞれの手法を示して面白い。

(P) Hold firmly to a fine purpose, and fair dignities will naturally attach themselves to you.

(B) Firmness of resolution, and steadiness of purpose, Will

certainly secure to you official dignity.

(J) Si vous tenez fermement une resolution droite, De brillants charges vous arriveront d'elles-même.

(H) Fest halte man das rechte Ziel, schöne Würden werden sich anknüpfen.

この二句は、あわさって一つの文意を伝えている。二句を独立させるためには、Bridgman や Julien の訳法ではだめで、Paar や Hauer の方法が必要になる。「英訳」では、二句の意味をそれぞれ、「高い品格こそ求められるべき」「高い地位は求めてはならない」と読みかえ、独立した文として表現している。

113-114

原典

肆筵設席 鼓瑟吹笙

口語訳

筵を敷いて、席を設け、
瑟をひき、笙を吹く。

英訳

Spread the mat, prepare the banquet.
Tune your guitar, bring your fife.

補説

「注解」にある漢字説明を示しておく。

肆 つらねること。ならべること。ここは敷きのべること。

筵 むしろ。竹で編んだ敷物。

席 筵の上に重ねる敷物。座席。

瑟 おおごと。二十五絃の大型の琴。

笙 しょうのふえ。

Paar らは、筵、瑟、笙などの訳出に正確を期そうとしたようである。

「英訳」では、これらの正確な意味をほとんど無視している。とくに瑟は guitar に置き換えており、瑟のイメージからはほど遠い。ただ、それによって訳文全体に現代に通じるニュアンスを与えられたかと思う。「英訳」は、二句の内容を、これから始ま

ろうとする宴会の準備の場面に置き換えて翻訳している。命令文を使って、宴席の準備にかかる人々の浮き立つ心や慌ただしさを表そうとしている。

173-174

原典

聆音察理 鑑貌辯色

口語訳

声を聞いて、道理を理解し、
表情を見て、心理を判断する。

英訳

See his reason in his voice.
Read his mind in his countenance.

補説

色とは「顔色」のことである。辯色とは「顔色を判断する」の謂いで、転じて「心理を判断する」ことをいう（「注解」参照）。Paar と Bridgman を比べてみよう。

(P) Do not just listen to the sound of words, but investigate the reasonableness of what is said. Examine a person's manner and learn to reach discriminating conclusions from appearances.

(B) Listen to what is said, and investigate the principles explained: Examine men's conduct, that you may distinguish their character.

多少の違いはあるが、よく似た翻訳である。意味を重視したため、解説的になっている。そのため、原典のスピード感は失われている。

全体に、Paar らの翻訳には、漢字の意味の深さや広さにてこずっている印象がある。漢字の背後意味に対して慎重になりすぎており、それが千字文全体の主体的解釈を制約している。

177-178

原典

省躬譏誠 寵増抗極

口語訳

自己を振り返り、自らをいさめ、自戒すべきで、
寵愛が増せば、高慢さが極まる。

英訳

Reflect on thyself as it needs.
Pride comes as favors increase.

補説

「注解」に、譏誠は「いさめることといましめること」、抗は「拳がるの意から転じて、高ぶる意」とある。また、躬は「身」である（李注）。

「口語訳」からもわかるように、この二句は全体で完結した意味に解釈される。「英訳」は、これらを独立した二句として訳しているが、PaarとBridgmanでは一連のものとして扱われている。

(P) Examine yourself, when you are ridiculed or admonished, and also when favors increase and you have risen to the peak of good fortune.

(B) When satirized and admonished examine yourself.
And do this the more thoroughly when favors increase.

両者とも ridiculed とか admonished という語を用いているが、原句にその意味はない。恐らく、PaarがBridgmanを真似たせいであろう。Paarの翻訳には、全体にBridgmanの影響が顕著である。Paarにおいて改良は見られるものの、同工異曲の印象は否定できない。

「英訳」は、独立の二句とし、互いが意味を補うように配慮した。Pride comes ~ の箇所は、『聖書』箴言 (16:18) の言葉、pride comes before a fall をもじったものである。

183-184

原典

索居閑處 沈黙寂寥

口語訳

閑静な所に一人寂しく住み、
沈黙して静かに暮らす。

英 訳

Live a leisurely life in isolation.
Think in silence and solitude.

補 説

句183は、官にあった者が引退後、故郷に帰り静かなところに一人住むというくらいの意味で、句184は、その趣を述べた部分である（「注解」参照）。Paarらの翻訳もよくその意味を伝えている。Paarのものを挙げておく。

(P) Dwell in isolation and live in retirement, in deep silence
and quiet solitude.

Paarの翻訳はよくできていると思う。ただ、この訳方は、「二句分離」という本稿の方針には合わない。「英訳」では、句184の黙を動詞化して別な文を仕立てた。silenceのかわりに quietude を考えたが、結局、頭韻の方を選んだ。引退後という気分は leisurely では不十分だが、「口語訳」には現れていない部分なので retirement は用いなかった。

185-186

原 典

求古尋論 散慮逍遙

口語訳

古の道を求め、賢人たちの議論を尋ね求めて、
心のうさを晴らし、のびのびと満足に暮らす。

英 訳

Let us learn from the ancient words.
Let us leave worry and live a life of ease.

補 説

「注解」に、尋論は「古の議論を探し求めること」、散慮は「心のうさ、わだかまりを払うこと」とある。また、逍遙については、「のびのびと足の赴くままぶらつくさま」という注記とともに、「のびのびと満足するようす」という説明もある。この二句は、句183-184と意味上のつながりを感じさせる。Paar および Bridgman は、次のように翻訳している。

- (P) Seek after the works of the ancients and investigate their discourses. Dismiss worry and roam about at leisure.
(B) Explore the works and examine the works of the ancients; Dissipate anxious thoughts, and enjoy rest and relaxation.

逍遙の部分の訳が二人の間で異なっている。Paarは「のびのびと足の赴くままぶらつくさま」を、Bridgmanは「のびのびと満足するようす」を選んでいる。ちなみに、Hauerは前者に、Julienは後者にそっている。「英訳」は「のびのびとくらす」にした。

203-204

原典

飽飫亨宰 飢厭糟糠

口語訳

満腹のときには美味にも飽き、
飢えたときには粗末な食事でも口にあらう。

英訳

Surfeit is the last admirer of rich food.
Hunger is the first admirer of poor food.

補説

「注解」によって字義を確かめておく。

飫 あきること。
亨宰 食物の料理。割烹。
厭 合うこと。かなうこと。
糟糠 酒の糟と糠。まずい食物のたとえ。

Paarは、亨宰の意味にこだわっている。一方、Bridgmanは、これを単に rich viands (美味しい食物) と表している。糟糠については、両者共に dregs and husks となっている。PaarがBridgmanに従ったものと思われる。Hauerも、それぞれ gesottenes Geschlachtetes, Bodensatz und Spreu と簡単に表している。この部分を字義通りに訳そうとしている PaarとJulien

を紹介する。下線部がそれにあたる箇所である。

(P) Those who are surfeited have no appetite either for well-cooked dishes, nor for meat and other slaughtered food; but those who are hungry are satisfied with dregs and husks.

(J) Celui qui est rassasié se dégoûte du poisson bouilli et des volailles cuites. Celui qui a faim se rassasie avec de la lie de vinet de la balle de riz.

二人の翻訳がそうであるように、この二句には関係詞構文が似合っている。しかし、複文構造は漢字のスピード感を捉えにくい。「英訳」は、surfeit と hunger の擬人化法を用いてこれを避けた。admirer ははじめ appreciator としていたが、音節数の関係もあって admirer を選んだ。結局、Paar や Julien とは全く違った翻訳になっている。

211-212

原典

晝眠夕寐 藍筍象床

口語訳

昼寝のときと夜寝入るときには、
藍色の竹の細工と象牙で飾った寝台がある。

英訳

For daytime naps and for nighttime sleep,
A mat of bamboo and a bed of ivory.

補説

この二句を独立した二文に書き換えることはできなかった。二文にするには、二句をばらばらにして組み直さなければならない。かりにそれがうまく運んでも、もとの意味が失われる可能性が高い。

「英訳」は、第一句を前置詞句、第二句を名詞句のみで表現した。わざと不十分な意味のままとどめて、互いの意味がよりあうように工夫したつもりである。

Paar, Bridgman は、まったく同じ構文を使っている。

(P) For daytime naps and nighttime sleep, there are blue mats, and beds decorated with ivory.

(B) For reclining in the daytime, for slumbering at night, There are blue straw mats and ivory mounted couches.

213-214

原典 絃歌酒讌 接杯舉觴

口語訳 琴をひき・歌をうたって、酒盛りをし、酒をつぎあい、觴を挙げる。

英訳 Strings, songs, and sake for the banquet!
Cups and goblets to raise a toast!

補説 讌は「さかもり」、觴は「さかずき」のことである。Paar, Bridgman は、杯と觴を cup, goblet と言いつけている。Julien も、petites tasses と goblets に区別している。「英訳」は、これを利用した。Bridgman の翻訳を挙げる。

(B) With stringed instruments, songs, and wine, the banquet proceeds. To each a cup is given, and all the goblets are upraised.

「英訳」は、名詞句表現にしている。感嘆符を使うことで景気を付けたつもりである。sake (酒) は、頭韻とご愛敬。

221-222

原典 牋牒簡要 顧答審詳

口語訳 手紙や文書は、簡単に要点を書き、回りを見回してから答えるときには、細かく分かりやすく言う。

英 訳

In letters and documents, be brief and concise.
In verbal answers, be discreet and detailed.

補 説

顧答とは、わかりにくい言葉である。「注解」は、『礼記』より「君子に侍りて、顧望せずして対うるは礼に非ず」を引き、周囲を見回してから答えること、問いに対してすぐに答えるのではなく、回りの人のようすを見てから答えるという謙遜した態度、と説明している。牋は個人の書簡、牒は官庁の公文書の意に用いられることが多い、ともある。

Paar と Bridgman の間に面白い対称が見られる。

(P) In letters and documents, be brief and concise, but in giving answers face to face, let your speech be detailed and well considered.

(B) In epistolary correspondence be concise, speaking to the point; And in verbal answers be discreet and explicit.

すなわち、Paar は第一句において、Bridgman は第二句において 'brief and concise' である。「英訳」は、双方の長所を活かしている。第一句は Paar と同じになったが、二句目とのバランスを考えた場合、これ以上の表現は思いつかなかった。第二句は、頭韻を意識して Bridgman の explicit を Paar の detailed と入れ替えた。

237-238

原 典

年矢每催 羲暉朗曜

口語訳

時間はずねに人をせきたて、
太陽の光は、照らし輝く。

英 訳

Years always leave us behind like arrows.
The sun always shines bright on us.

補 説

羲は、太陽に関して用いられる漢字である。「注解」は、羲暉を

「太陽のかがやき」と説明している。年矢は、時間の早いことを矢に喩えたものだが、英語にも 'arrow of time' や 'time flies' などがあるのはよく知られている。Paar, Bridgman は、申し合わせたようにこれを使っている。

(P) The years fly like arrows, each pushing on the other.
The bright sunlight is clear and dazzling.

(B) Years fly away like arrows, one pushing on another.
The sun shines brightly through his whole course.

二人の翻訳は、ほぼ同じと言ってよい。Paar が Bridgman を参照している分、すぐれているかと思う。

「注解」には、毎は「いつも、つねに」であり、催は「せきたてる、うながす」とある。李注も同様である。Paar の each pushing on the other および Bridgman の one pushing on another において、push するものもされるものは year である。すなわち、「年月が年月を押しように」というのが二人の毎催の解釈である。「英訳」は、like arrows を使っているところは同じであるが、組み合わせを変えている。毎にこだわって always を使ったためである。

247-248

原典

孤陋寡聞 愚蒙等誚

口語訳

孤独でかたくなな人や、見聞のせまい人に対しては、愚かで物を知らない人まで、他の人びとと同じように非難する。

英訳

Anchored in recluse obstinacy, we alienate the world.
Anchored in dull stupidity, we deprecate the world.

補説

孤陋寡聞をどう読むかは意見がわかれる。それによって、愚蒙等誚の読み方も変わる。Paar および Bridgman の後半部（下線部）は、「口語訳」の解釈と明らかに違っている。

- (P) Asocial, barbarian, uninformed persons meet with the disapproval of society, a disapproval equal to that used in deprecating dull stupidity.
- (B) A recluse, vulgar, and uninformed, person, Will meet the same ridicule as a thorough ignoramus.

「英訳」は、「孤独でかたくなな人は見聞が狭くなり、愚かで物を知らない人はみな世間を非難する」という思い切った解釈に立っている。

その解釈に立ってさらに視点を移動している。

あ と が き

本文中にも断つてあるとおり、本稿は、千字文そのものの研究ではない。表題が示すとおり、あくまで翻訳の研究である。

一般に、この種の英訳は、漢字民族以外の翻訳者の手になる場合、冗長になりやすい。それは、おおむねこれらの翻訳者が漢字や中国文化、日本文化の研究者であり、その研究者としての姿勢が翻訳にも現れるからである。

オリエンタリズムが一世を風靡したのは、18世紀後半から19世紀末にかけてである。オリエントとは、西洋人の概念で、広くアフリカや中近東をふくむ「東方」全体を指しており、日本や中国は、その最果てに位置することになる。いわゆる *chinoiserie* (中国趣味) や *japonisme* (日本趣味) が起こるのは、それぞれ18世紀末、19世紀後半である。本稿で紹介した文献の出版年からも、西洋人による千字文の研究がこの時代に集中していることがわかる。

このような時代に進められた翻訳研究は、やはりそれなりに時代の空気を取り込むことになる。Paarらの翻訳が、おおむね、紹介的、解説的な方向に傾いているのは、その一つの表れであろう。彼らは、時代の要請に従って、遠い世界を西洋に持ち帰らなければならなかった。漢字に現れる未知

の世界を可能な限り正確に自分たちの同胞に伝えること、彼らの眼目はこの点におかれていたのではないだろうか。

彼らは、結局、漢字のもつ意味にとらわれている。原句のもつスピード感、力強さ、簡潔さから生まれる余韻、彼らの翻訳ではこれらが失われている。もっとも、漢字だけで書かれた韻文を英訳するのは、誰にとっても簡単なことではない。Paarらを批判したからと言って、私に立派な翻訳ができるわけではない。千字文は、形式が簡潔である分、解釈の幅が広い。加えて、韻文として押韻上の工夫がなされている。これらを考慮し、かつ原文の調子と気分を英訳することは、私の手に余る仕事である。その意味で、今回の翻訳は、あくまで試訳であり、今後の修正・加筆のための資料としての域を出ない。

(2003. 8. 25)

付記

翻訳にあたって直接利用した資料は、次の二点である。その他の関連資料については本文中で言及している。

小川環樹・木田章義注解 (1997). 『千字文』, 東京: 岩波書店.

Paar, Francis W. (ed.) (1963). *Chien tzu wen: the thousand character classic: a Chinese primer*, New York: F. Ungar